

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 26年 10月 6日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470202510		
法人名	有限会社美泉		
事業所名	グループホームよってきんさい古江		
所在地	〒733-0872 広島市西区古江東町1-26 (電話) 082-507-6525		
自己評価作成日	平成26年8月25日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=3470202510-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成26年9月25日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

電車・バスなどの交通の便もよく、閑静な住宅地の中にあるホームです。民家改造型住居で窓から大きな庭の緑も見える環境です。力を入れていることは入居者の方の看取りです。入居者の一人ひとりに寄り添い、リビングで和やかに対話をしたり散歩や料理や洗濯たたみなど入居者様と一緒に楽しく行っています。町内会にも加入し、地域の方々との関わりを大切にしています。敬老会や旅行の行事を企画し利用者様と家族にも喜んで頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

1 当該事業所は広島市西区ほぼ中央部の閑静な住宅街にあり、家族・友人の訪問面会等に電車等公共交通機関によるアクセスの便が良く、また利用者の散歩外出支援などに適した地理的環境にある。

2 施設は古民家を改造し、利用者が自宅と思えるような雰囲気のある和式建築で、屋内は所謂バリアフリーではないが、反って利用者が通常の注意を払いながら日常生活を送ることにより、事故もなく健常者に近い能力を身に着けられて、明るく、生き生きとした毎日を味わっておられる様子が伺える。

3 職員は管理者を中心に利用者の生活を最優先に、最後まで支援することを重点として、利用者の「看取り」を念頭に優しく寄り添う日々の見守り支援等により家族及び利用者の信頼を得ている。また、事業所の母体である「美泉グループ」と全面的に連携した事業所の運営は、介護・医療などあらゆる支援が一体化しており、一事業所の弱点をカバーして家族等の安心感を得て信頼を高めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	美泉開設当初よりの運営理念があり、掲示し毎朝唱和している。この理念を元に新年互礼会で各事業所の目標をたて日々取り組んでいる。	母体の「美泉グループ」の理念はあるが、職員は毎年新年互礼会時に全員で前年の実績を見直して事業所固有の新しい理念を定めている。本年は「職員同士の連携を図り、調和・協力を大切にし、統一した介護支援ができること」を理念として掲げて管理者の日々の指導の下に全職員の思いを共有し、実践に繋げる支援に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に加入し役員を務めたり、町内の清掃に参加している。回覧板を入所者と届けに行ったり、散歩や買い物で挨拶を交わしている。	地域に事業所開設以来14年の歴史を持ち、その間には事業所が町内会に加入し役員として活躍したり、利用者の日々の散歩外出や買い物などでの近隣の方との挨拶・会話などの交流を重ね地域の一員として認識されている。しかし「お付き合い」程度の浅い交流で、親交的な深い繋がりを築けるよう関係構築に努力中である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	町内会や推進会議で質問を受け、お答えしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回定期に行っている。町内会長、民生委員、地域包括支援センターより出席して頂き、事業所の活動や利用実績など報告している。会議での意見は、職員ミーティングや管理者会議で報告し、日々のケアに活かしている。	運営推進会議は2カ月に一度、地域包括支援センター職員・民生委員・老人会会長等地域の代表者の出席を得て開催されており、施設の現状・行事・活動状況等定例的な内容・実績の報告・連絡を主体に実施されている。最近会議の地域情報で得た公民館行事の「健康寿命延伸体操」に職員・利用者で参加し支援に活用している。	現状の運営推進会議は、平日に開催されていた為、利用者・家族の参加も少なくまた議題も本来あるべき施設の運営状況・サービスの実態・評価や課題への取り組み状況などを主体に意見交換することも少なかった。会議では多くの貴重な意見を聴取し、サービスの向上に反映できるよう参加者・開催日・議事等の改善が期待される。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	生活保護受給者の為に生活課と連絡をとっている。地域包括支援センターより会議に参加頂き、事業所の活動や状況を伝え、地域の情報を頂いている。	市町関係は主として事業所母体である「美泉グループ」がまとめて連携をとっているため単独の事業所ほどの頻繁さはないが、利用者生活保護受給者がいるため生活課との連絡が多い。その他運営推進会議関連では地域包括支援センターと緊密な連絡・調整を維持し情報の交換を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>玄関や職員専用門は午前8時から午後7時までは常時開放しており、出入りは自由にしている。徘徊される方には付き添い、見守りを行っている。市の研修会にも出席し身体拘束のないケアを行っている。</p>	<p>年間数回行われる母体グループ内での研修会、事業所での職員教育などにより身体拘束に関する理解は正しく全職員に徹底されている。言葉や動作による抑制・制止も拘束に当たることを含め一切の拘束禁止を徹底し、入念な見守りで代替・対応している。その一例として玄関などのドアも職員の見守りで常に解放されている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>全職員が社内研修を受け学んでいる。職員同士お互い注意を払い、防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>社内研修や会議、ミーティング等で学んでいる。必要時は上司に報告し、支援へとつなげている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時には重要事項説明書・契約書により十分な説明を行い、理解・納得の上で署名・押印を頂いている。契約後であってもいつでも質問を受け、説明することを伝えている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>玄関に意見箱を設置し、面会時にも意見や要望をお聞きしている。直接代表へお電話される場合もある。それを管理者会議等で検討し、改善に努めている。</p>	<p>運営に関する要望や意見は、利用者本人からは職員が日常生活の支援の中から、家族からは主として面会時や利用者の状態変化時などの報告時に積極的に接触を保ち、意見や要望を頂く機会として活用している。頂いた意見や要望は、母体グループで行われる管理者会議等で代表者に説明し了解を得て、反映・改善に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	申し送りやミーティング、互礼会等の集まりで意見や提案を聞いている。管理者会議で検討し、業務に反映させている。	職員の意見や提案は日常の申し送り時・1回/月の職員全員のミーティング時・2回/月の管理者会議時などの意見発表の場が設けられ「美泉グループ」全体での統一を図ったり、簡単なものは個別の事業所で反映させたりと運営上に活かされている。個別の事業所は勿論、グループ母体内も風通しがよく、提案・意見が出し易い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年1回申告書があり、職員は希望や意見を伝えていく。それをふまえての面接でより細かく把握し、より良い環境となるよう努めている。研修や勉強会のための勤務調整を行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	社内外の研修の機会があり、資格取得の支援をしている。日々の勤務の中でも気づきがあればその時に伝え、職員の技術・知識の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域包括支援センター主催の研修に参加し同業者との交流を図り、良い所は取り入れている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前訪問を行い、本人や家族からお話を伺い、不安や心配がないように説明し、見学にも来て頂いている。希望があればお試して泊まって頂き、不安の軽減に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>入居前の面接で家族の困っていること、要望を聞き、入居後も面会時などにホームでの様子をお伝えし、不安の解消や要望に対し対応している。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>本人・家族から話を聞き、その時に一番必要であるサービスを提供できるよう努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>本人の持っている能力を生かし、入居者と一緒に作業を行い一日の生活を共に過ごしている。作業後は感謝の気持ちを伝えている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>家族の訪問時にはホームでの様子を伝え、時には家族に相談しながら共に支えていく関係を築いている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>入居前からの美容院や病院があり、入居後もそこに行きたい希望があれば、家族の力も借りながら付き添い出掛けている。</p>	<p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所の把握は、入居前の本人・家族からのアセスメントにより概要を把握し、入居後の一定期間内に日常会話や動作の中から細部を把握修正しつつ、かつその継続が維持できるよう家族との連携の下に支援に努めている。担当職員を定めて、より細かく把握できるよう配慮している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係を築けるように職員が仲介役として話しや共に作業し、食事時には一緒にテーブルにつき過ごしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス終了し退去された後も希望があればご家族の相談にのり、支援に努めている。死亡退去の時、法要や納骨もお手伝いしている。家族がいらっしゃらない時は葬儀後もお骨を預かり納骨している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	センター方式を利用し情報収集を行っている。入居者との会話の中で、意向や希望などの把握に努め日々の生活に反映させている。本人から話が聞けない場合は本人の立場に立ち、表情や仕草から思いをくみ取りケアに活かしている。	利用者本人を主体に家族・職員・医師等の関係者全員が、利用者本人が最後まで本人らしく生きることを支援するという共通の認識の下に「センター方式による基本情報の収集」を活用し把握に努めている。特に職員を利用者ごとに定めて利用者個別の思いや意向の現状把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式を用い本人・家族・入居前の関係者より情報収集を行い記録している。入居後も面会に来られる方との会話の中などからも情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人ひとりに適した一日の過ごし方をアセスメントし考え、日々の生活を共にやり記録を積み重ねることで現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>センター方式を用いアセスメントしている。様式Eを活用し本人・家族・職員と話し合い、往診時にはホームドクターの意見もお聞きしている。1ヶ月ごとのモニタリングを行い、4ヶ月ごとにプランを作成している。</p>	<p>認知症の初期から終末期まですべての段階に適応した「その人らしい生き方」を支援するための介護マネジメント手段として「センター方式」を活用した介護計画を作成している。ベテラン職員によるモニタリングを基に家族・医師を交えた話し合いによる現状に即した介護計画を4ヶ月ごとに見直し、作成して適切な支援に当たっている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の生活日誌の記録、職員の申し送りノートなどで情報を共有し実践し、介護計画の見直しをしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>他事業所と協力し、本人の意思を尊重しながら本人・家族のその時の状況にできるだけ合わせ支援できるよう取り組んでいる。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域の商店へ買い物に出掛けたり、回覧板を職員と一緒に送ったりしている。町内会の清掃や祭りにも参加している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入居前のかかりつけ医を希望される時は引き続きお願いしている。特にない場合は本人・家族に納得して頂いた上で受けて頂いている。</p>	<p>利用者の受診は、本人・家族の希望を大切に、かかりつけ医による受診を継続していただいている。母体グループ提携の協力医は、週1回の往診があるほか眼科などの専門医の受診にも職員が対応し適切な医療を受けられるよう支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>日常の気付きや体調変化が見られた場合、看護職員に報告・相談し必要時にはホームドクターに連絡し適切な処置が受けられるよう支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時にはホームの生活状況の要約を作成し提供している。毎日面会に行き洗濯物を届け、病院関係者より経過を伺っている。早期に退院できるよう情報交換をこまめに行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>入居時に重度化した時や看取り時の方針を家族に説明し同意を得ている。また状況の変化とともに本人・家族・ホームドクター・職員と話し合い意向の確認を行っている。</p>	<p>重度化した場合や終末期の在り方については、文書で確約はしていないが、入居時に家族・利用者本人・医師と話し合い事業所でできることを理解していただき看取りを行う方針を共有している。また、状況の変化があるたびに再確認し、母体グループからの支援協力と合わせてチームとして方針の共有・支援に取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>マニュアルを作成しており、それにそって応急手当が出来るよう研修・実践をしている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>年2回避難訓練を行っている。夜間はマニュアルをテーブルの上に置き1回は目を通し確認している。運営推進会議にて協力が得られるようお願いしている。</p>	<p>防災訓練は消防署の協力を得て年2回実施され、特に職員数が少ない夜勤に備え防災マニュアルを確認し心構えを新たにするなど万全の体制を維持している。地域との協力は近隣の個々の協力同意は得られているが、地域全体的な協力体制までは確立していない。万一来に備え、近隣の母体グループ職員相互の協力体制は整っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者への言葉かけや対応など個々の人格を尊重した言葉遣いや態度に気をつけ対応している。トイレ誘導やパット交換などさりげなくお誘いしている。	職員は利用者個々の個性や人格等を把握し、利用者への言葉かけや対応等が利用者の人格やプライドを損ねないよう大声や人前でのトイレ誘導や恥ずかしい事象の声掛けや動作にならないよう留意している。トイレや入浴時の介助に男性・女性の同性となるよう配慮する等個々の人格やプライバシーに配慮した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の意思決定を大切にし、着たい服や食べたい物、飲みたい物、どうしたいかなど自己決定できる場面を作り一緒に考え決めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一日の時間の流れは決まっているが、その中でも本人のペースでしたい事などの希望を取り入れ支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	馴染みの理・美容院にお連れしている。外出時にはお化粧品をしておしゃれを楽しんで頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者や職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	献立に好みを取り入れ、盛り付けなどの準備・片づけを一緒に行っている。誕生日や季節の行事に合わせた行事食を楽しんで頂いている。	利用者個々の好き嫌いは入居前のアセスメントにより本人・家族から聴取し概要を把握し、入居後はアンケートを採ったり毎食時の状況から好みを把握している。嫌いなものに関しては調理法を変えるか、代替食を準備するなどの対応を取っている。外食や行事食などは年に数回実施し、食事が楽しみなものとなるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事、水分量は生活日誌に記録し、一人ひとりの状態に合わせた量や形態で提供している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後口腔ケアを行い、自力困難な方には職員が介助している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>毎日の習慣にそったトイレ誘導を行っている。排泄状況を生活日誌に記録し、パターンの把握に役立て、誘導を行っている。</p>	<p>利用者個々に日常的な排便をチェック・記録してパターンを把握し、極力事前にトイレへ誘導することにより失禁を減じ、トイレでの排泄や排泄の自立へ向けた支援に努めている。また、排泄後の残尿感の把握にも配慮することにより、パットや紙パンツの使用を減じ経済的負担が軽くなり、家族にも喜ばれている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>排便チェック表や生活日誌に記録し、常に排便状態を把握するよう努めている。腹部マッサージ、牛乳を飲用したり散歩や運動を心掛け、便秘予防に取り組んでいる。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>日曜日以外毎日入浴できる。季節に応じて柚子湯やしょうぶ湯など楽しんで頂いている。</p>	<p>入浴は、事業所としての日課標準としては3回/週・時間的には午後からと定められているが、本人の希望により毎日でも入浴可能である。また季節に応じたゆず湯・しょうぶ湯などの他入浴剤の使用や、熱めや温めの湯等好みに合わせることも自由に利用者個々の要望を尊重した対応の支援に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	一人ひとりに応じ昼寝の時間を取り休息して頂いている。昼間はしっかり活動し、夜間の安眠へとつなげている。		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	薬手帳や処方時の説明書きを職員全員が把握し服薬の支援と症状の変化に気を付け、必要時にはホームドクターに報告している。		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	一人ひとりの力を活かし、洗濯たたみ、野菜の下ごしらえ等して頂き、役割りを分担している。旅行や行事などに参加し楽しんで頂いている。		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	天気の良い日には散歩に出かけている。墓参りや外食など、家族との外出も支援している。お花見や年1回の旅行を計画し実行している。	車いす利用者が3名いるが、天候が良ければ7名全員が、ほぼ毎日近隣の公園やスーパーなどに散歩や買い物外出を兼ねて出かけており、地域の方から花や野菜を頂いたり会話を楽しんだりしている。母体グループで行われる花見や旅行にも参加したり、家族による外出も支援したりして利用者の希望に協力するよう支援している。	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	家族より預かり金として出納帳を作り、外出時には自分で支払えるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話を本人が希望された時や家族からかかってきた時、子機を利用しいつでも使用できる。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節に合ったお花や壁画を飾り空間作りをしている。居心地良く過ごせるよう、テレビをつけっぱなしにしないよう、又空調にも気を付けている。	施設は2階建て古民家を改築し、2階に5個室・1回に3個室及び居間兼食堂・台所・浴室・トイレ・玄関兼ロビーなどの共用空間を配した造りとなっている。採光や風通しがよく、閑静な住宅街にあるため騒音や悪臭もなく、室内の装飾も適度でゆったりとした居心地の良い空間を形成している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居室における独りの時間も大切にし、またリビングではくつろいだり休めるようなソファが2ヶ所ある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には本人の使い慣れた物、好みの家具、自分で作った作品などを飾り、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室の備品はベッド・空調・照明設備・防災カーテンである。寝具類・筆筒・机等家具類やテレビ等電気製品その他生活に必要なもの、趣味的なものなど入居者固有の部屋として自分の好みに応じた物を特に制限なく身近に持ち込んで居心地よい日常が自由に送れるよう支援に努めている。中には仏壇まで持ち込んでおられる利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレ・浴室等わかりやすいよう表記し、手摺や入浴バーを設置している。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き生きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームよってきんさい古江

作成日 平成26年11月12日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議に家族の参加がなく同じ方ばかりでの会議となっている	・参加できそうな家族に連絡し出席頂く ・民生委員、町内会の別の方にも参加して頂く	家族の都合の良い日に運営推進会議ができるよう調整する	6ヶ月
2	35	夜間を想定した非難訓練の実施	夜間想定での避難訓練を年1回行う	夜間想定での避難訓練で、地域の方との協力を得られるようにする	1年
3	2	地域の方との交流を、積極的に行う	・近くの保育園や公民館など、地域の方との交流ができる機会を増やす	・保育園や公民館での行事に参加する ・積極的に情報収集する	1年
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。